

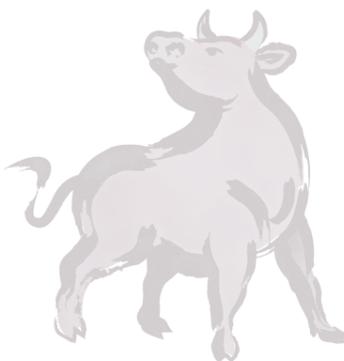
新春対談2021

渋沢栄一翁がつなぐ絆

〈深谷市長〉

〈東京都北区長〉

小島進 × 花川與惣太



今年、渋沢栄一翁が主人公の大河ドラマ『青天を衝け』の放送が開始し、併せて大河ドラマ館も開館するなど、栄一翁関連のイベントが数多く予定されている記念すべき年となります。

そこで今回は、栄一翁ゆかりの地として連携を深めている深谷市と東京都北区の共同企画として、北区飛鳥山公園内の国指定重要文化財『青淵文庫』にて市長と区長の対談を行い、栄一翁のことや互いのまちのことについて語り合いました。



小島 進 (深谷市長)



花川 與惣太 (東京都北区長)

1935年生まれ。岩手県釜石市出身。北区議会議員を3期、東京都議会議員を5期務める。2003年より現職。区政運営の基本姿勢は『区民とともに』。健康の秘訣は、定期的に散歩をすること。

今後栄一翁の「論語と算盤」を大切に、しっかりとした道徳観をもって経済施策やさまざまなまちづくりを行っていきたく思います。

花川区長 渋沢翁は、「誠心誠意をもって人に対すれば、不思議なほど相手に感動を『与える』ものであ

る。』という言葉を残しています。私の好きな言葉は「誠」です。多くの方々と接する機会が多い私にとって、この言葉は非常に示唆に富んだものなのです。

いつも何事にも真心をもって、誠実に粘り強く区政に取り組んでいきたいと思っています。

小島市長 行政運営の参考といたしましては、今区長がおっしゃったように誠意をもって人に接するところが重要です。

栄一翁は晩年、多くの方々が訪ねてきてもしっかりと時間を作って、いろいろな話をこの飛鳥山の邸宅で聞いたといわれています。多くの話の中から、「これはやるべき」という判断は、おそらく栄一翁は天才だったのだらうなと思います。栄一翁のように誠意

小島市長 深谷はいわゆる片田舎で、よくあれだけの人物が生まれたいわゆるのですが、私は二つの環境があると考えています。一つは『家族』です。特に父親の教育の部分で、尾高惇忠の私塾で学んだ部分が大きな要因の一つだと思います。あとは江戸まで続く利根川や中山道があったことですね。

これらの交通により、しっかりと情報の流れや動きが掴めたのであろうと思います。田舎でもいろいろな人や文化と出合える場所があったということですね。深谷のこうした環境の中で健やかに育ちながら、世の中に大きく羽ばたいていったらうななと感じています。

花川区長 渋沢翁は、『できるだけ多くの人に、できるだけ多くの幸福を与えるように行動するのが

我々の義務である』と考え、常に日本のため、公益のために尽力していました。この考え方は、行政運営する上で最も基本となるものだと思いますので、私も常に念頭に置きながら仕事をしています。

晩年を過ごした北区に渋沢翁がどのような影響を与えたか。

花川区長 渋沢翁は、自ら創業に尽力した製紙工場を見守り続けたという思いから飛鳥山に別荘を構えたといわれています。製紙工場の建設に必要な選定条件を満たしたのがこの王子だったということですが、何回も飛鳥山に足を運び、中々、住みやすい土地としての魅力も感じたのではないかと思います。

飛鳥山は多くの賓客を迎える民間外交の場としても利用されていましたが、渋沢翁は地域の発展も大事にしていて、町行政の整備や地域の社会教育にも関わっていました。地域住民による自治組織の発展の援助なども行い、北区を新たな時代へ導いてくれたと思います。



この対談が、北区民の皆さんと深谷市民の皆さんとの交流の架け橋になればと思っております (小島市長)



今後も渋沢翁でつながったご縁をもとに深谷市とさらに連携を深めたいと思っております (花川区長)

北区とは比較的近い距離で連携をとることができ、栄一翁には本当に感謝しています。この関係は長

く続けたいですよね。花川区長 そつです。ね。ぜひよろしくお願いします。

大河ドラマも放映されますが、特に注目されている部分があれば教えてください。

小島市長 やはり、栄一翁が幼少期から青年期を過ごした深谷の部分に注目しています。特に、栄一翁の生地である血洗島(ちまきじま)に今も残る獅子舞を踊るシーンを楽しみにしています。エキストラで血洗島の方々も出させていただいて、なおかつ獅子舞の指導も地元のかたが行いましたので、そのあたりにも注目しています。

花川区長 渋沢翁91年の生涯は、激動の一生といつていいと思います。ドラマでは青年期が話の中心になるかと思いますが、ここ飛鳥山で過ごした半生をどのように描いてくれるかが楽しみです。幕臣・官僚・実業家と多彩な顔を持つ渋沢栄一という人物がどのように描かれるかにも注目しています。

最後に、広報紙の読者にメッセージをお願いします。

小島市長 今回のような対談が実現したのは、北区の多大なるご尽力のおかげです。この対談が、北区民の皆さんと深谷市民の皆さんとの交流の架け橋になればと思っております。ぜひ、広報ふかやと北区ニュースを手にとって併せて読み比べてみてください。

花川区長 今年はこの特集で、渋沢翁や深谷市と北区の魅力について知っていただけたらと思っています。そして、今後も渋沢翁でつながったご縁をもとに深谷市とさらに連携を深めたいと思っておりますので、今後の展開にも注目してください。

渋沢翁に関するエピソードで印象的なものを教えてください。

小島市長 栄一翁は、いまや新紙幣の顔にも選ばれたほどの大人物ですが、その陰には数多くの挫折もあったのだらうと思います。攘夷(じょうい)実行を目指した高崎城乗りの断念。また、倒幕を志した時期を経て、幕臣、官僚として実業家と決して当初の意思通りにはいかなかった中でも、それを乗り越えて成長したのではないのでしょうか。こうした人間味のあるところも含めて、栄一翁を尊敬しています。

花川区長 関東大震災の際に、83歳だった渋沢翁を心配して子どもたちが避難を勧めたのですが、この時に働いてこそ生きていく申し訳が立つ」と言って飛鳥山に残り、罹災者の救済に力を注いだんですね。さらに自宅を食料品の配給本部として提供するなど地元の人々への支援もしています。何歳になっても人々のために働きたいという気持ちにとても共感を覚えます。

渋沢翁関連の事業で今後、深谷市と北区のどのような連携を進めていくのか教えてください。

花川区長 現在、大河ドラマ館の運営について緊密に連携をとって進めているところです。昨年末に深谷市と共同で販売した「大河ドラマ館の広告付年賀はがき」は、大変な反響をいただきました。これからは渋沢翁を通じて、行政の連携だけではなく、市民間の交流、特に子どもたちの交流が増えるといっています。

小島市長 そつです。ね。ぜひ子どもとの交流も進めましょう。あとは、できれば多くの北区民の方々に深谷を訪れてもらいたいです。考えてみれば電車の快速で1時間ですからね。深谷市民にも北区の赤羽や王子などに出掛けてもらって、お互いにPRしていくということも大事ですよ。

花川区長 現在、大河ドラマ館の運営について緊密に連携をとって進めているところです。昨年末に深谷市と共同で販売した「大河ドラマ館の広告付年賀はがき」は、大変な反響をいただきました。これからは渋沢翁を通じて、行政の連携だけではなく、市民間の交流、特に子どもたちの交流が増えるといっています。

小島市長 そつです。ね。ぜひ子どもとの交流も進めましょう。あとは、できれば多くの北区民の方々に深谷を訪れてもらいたいです。考えてみれば電車の快速で1時間ですからね。深谷市民にも北区の赤羽や王子などに出掛けてもらって、お互いにPRしていくということも大事ですよ。



▲栄一翁の思想と行動を顕彰する渋沢青淵記念財団竜門社(現・公財)渋沢栄一記念財団)の附属施設として昭和57年に飛鳥山公園の一部に設立された博物館。令和2年11月19日にリニューアルオープンを迎えました。



▲栄一翁が喜寿(77歳)を迎えた時に清水組(現・清水建設株)から贈呈された洋風茶室。国指定重要文化財。主に国内外の賓客を迎える接待・接客の場として使用されました。

渋沢史料館

晩香廬

北 区 の

渋沢栄一翁ゆかりのおすすめスポット

以下ご紹介する施設については、完全予約制です。詳しくは、渋沢史料館のホームページをご覧ください。なお、東京都北区の広報紙『北区ニュース』の新年号では、深谷市内の栄一翁ゆかりのおすすめスポットを紹介しています。そちらもぜひご覧ください。



▲ 渋沢史料館 ホームページ



▲ 北区ニュース ホームページ (1月1日更新)

青淵文庫



▲栄一翁の傘寿(80歳)と子爵に昇格したお祝いを兼ねて、大正14年に竜門社(現・公財)渋沢栄一記念財団)が贈呈。国指定重要文化財。書庫として建設されたことから全体的に堅牢な建築となっています。